

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2019年 2月 13日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団
会長 喜多悦子 殿

2018年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

親のがんを知らされた子どものサポートプログラム

活動団体名： 学校法人 帝京大学

活動者（助成申請者）名： 南川雅子

I. 活動の目的

国立がん研究センターの推計(2015年)によると、わが国全体で1年間に新たに発生する18歳未満の子どものいるがん患者の数は56,143人、その子どもたちの数は87,017人、また1つのがん診療連携拠点病院では、1年間におよそ82人の18歳未満の子どもを持つがん患者と128人の子どもたちが新たに発生している。結婚年齢や出産年齢の高齢化に伴い、がんの親をもつ未成年の子どもは、今後ますます増加するものと思われる。特に認知的発達の上にある学童期の子どもは、親ががんに罹患したことを知らされると、「自分のせいではないか?」「自分にもうつるのではないか?」と自己中心的な考えを持つ、成績不振、腹痛や頭痛などの身体症状の発現、情緒不安定、好きだったことをしなくなるなど、大人と異なる反応を示す。このような子どもが、変化した親子の関係性や自身の気持ちの変化に対処するためには、がんに直面している子どもの両親ではなく、第三者の大人による特別なサポートが必要とされている。

我が国では、親のがんを知らされた子どもを対象としたプログラムとして、CLIMB®がいくつかの施設で展開されている。CLIMB®は、子どもの内在する肯定的な力を引き出し、孤立感を軽減し、安心感を高めるのに有用であると言われている。しかし構造化されたプログラムであり、各セッションで取り扱う感情が決められているため、子どもが自由に感情表現することが難しいだけでなく、活動全般に渡って子どもに主導権がなく、受け身になってしまうというデメリットがある。そこで2016年に、米国のダギーセンターモデルによる子どものグリーフサポートプログラムを基盤とした「コアラカフェ®」プログラムを立ち上げた。本プログラムは、①子どもが安心できる場(安全基地)を提供する、②子どもの主体性を尊重する、③がんという病気や治療に関する知識を提供する、④子どもの自由な感情表出を促す、⑤仲間意識を醸成する、⑥子どもの退会を強制せず、活動を長期的に継続できるようにするという6つのポリシーに基づき、学童期の子どもが、親ががんになったことで体験する日常生活の変化や自身の感情の変化に対処するためのレジリエンスを高めることを目的として活動している。

今年度は昨年度の課題を踏まえ、プログラムの運営と並行してリクルート活動に力を入れ、リーフレットやポスターを作成し、教育機関、医療機関、交通機関などに配布・掲示を行った。また関連病院のがんサロンを利用し、1回/月の割合で「がん治療中の子育て相談会」を開催し、コアラカフェ®の対象になりそうな来場者にリーフレットを手渡してプログラムの趣旨を説明し、参加を勧めている。

II. 活動の内容・実施経過

1. 活動の内容

コアラカフェ®の活動内容は以下のとおりである。

- プログラムのタイプ：ワンデープログラム
- 開催頻度：基本的に1か月に1回、第3日曜日に開催する。
- 1回の所要時間：2時間30分程度

- 開催場所：帝京大学板橋キャンパス 4号館 1階
- 事務局：帝京大学医療技術学部看護学科（代表：南川雅子）
- 運営メンバー（合計 16名）：帝京大学医療技術学部看護学科教員 7名、帝京大学医学部附属病院がん看護専門看護師 1名、杏林大学保健学部看護学科教員 3名、埼玉県立大学大学院研究科教員 1名、岩手医科大学看護学部教員/精神看護専門看護師 1名、筑波大学人間総合科学研究科看護科学専攻博士後期課程学生 1名、他 2名。
- プログラム内容

順番	活動	内 容
1	プレ ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> ファシリテーターは、気持ちの切り替えを行う。 ファシリテーターが、参加する子どもと保護者を確認する。 ファシリテーターが、当日の活動内容を確認する。
2	参加者来場	<ul style="list-style-type: none"> 参加する子どもたちに名札をつけてもらう。 保護者は別室に案内する。 <p>*保護者は子どものプログラムが終了するまでの間、希望する者が集まって茶話会を行う。茶話会のテーマは、最近の子どものこと、自分自身および配偶者のがん治療のこと、がん治療を通して感じていること等である。茶話会には 2名のファシリテーターが参加する。</p>
3	はじまりの輪	<ul style="list-style-type: none"> この場所が特別な場所であり、親のがんのことや親ががんになって感じたこと等を自由に話してよいことについて理解を促す。 ファシリテーターを含め全員が自己紹介を行う。誰ががんなのか、どこのがんなのか、治療しているのか・死んでしまったのか、等を含めて自己紹介を行う。 この場で安全に過ごすためのルールを皆で確認する。
4	遊び	<ul style="list-style-type: none"> 新しい仲間が参加する場合は、始めにアイスブレイキングを目的としたアクティビティを行う。 その後、遊びを通して感情表出を促す。準備しているおもちゃで遊ぶ、絵を描く、グラウンドで球技をする等、一人一人の子どもが好きな遊びをする（子どもたちが一緒になって遊ぶこともある）。その間、ファシリテーターはリフレクションの手法を用いながら、子どもが発散するエネルギーの大きさに合わせて、1対1で子どもに寄り添う。
5	おやつタイム	<ul style="list-style-type: none"> クッキーやせんべいなどのおやつと飲み物を準備し、子どもとファシリテーター全員で一緒に食べる。
6	おはなし タイム	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにニーズがある場合には、その子どもの年齢や特徴に合わせた方法で個別に、がんという病気や治療、がんに関わる知識、死とは何か等を伝える。

		<ul style="list-style-type: none"> 子どもとファシリテーターが円形に座り、いくつかのテーマを準備し、各自がテーマに沿って話をする。
7	遊び	<ul style="list-style-type: none"> 2回目の遊びは、おはなしタイムで話すことによって、子どもの潜在的な気持ちや思いが活性化されることがあるため、それらに対するケアを行うことを目的とする。
8	おわりの輪	<ul style="list-style-type: none"> 子どもとファシリテーターが円形に座り、行った活動を振り返る。 特別な場から日常生活へ戻るために、気持ちの切り替えを行う。
9	ポスト ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の茶話会のファシリテーターと、子どものプログラムのファシリテーターが集まり、プログラム実施中に見られた参加者（子ども・保護者）の反応等に関する情報共有を行う。 今回の活動を振り返り、次回の活動に向けて改善点を出し合う。 ファシリテーターが日常生活に戻るために、気持ちの切り替えを行う。

2. 実施経過

今年度の助成を受けている間に行った活動は下表のとおりである。

2018年	
4月2日(月)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局5名
4月30日(月)	日本在宅医学会 第20回記念大会 公募シンポジウムにて発表 テーマ：親のがんを知らされた子どもたちをサポートするプログラム「コアラカフェ®」 発表者：南川雅子、有賀悦子、中島恵美子、飯岡由紀子、寺田由紀子
5月10日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局5名
5月20日(木)	① コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ7名
6月2日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
6月13日(水)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局6名
6月24日(日)	② コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ8名
7月7日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
7月8日(日)	③ コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ5名
7月9日(月)	コアラカフェ®事務局会議 出席者：コアラカフェ®事務局7名
8月4日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
8月30日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局7名
9月1日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
9月9日(日)	④ コアラカフェ®開催 参加者：子ども4名、保護者3名、ファシリテーター・スタッフ7名

9月24日(月)	International Conference on Cancer Nursing (New Zealand, Auckland)にてポスター発表 テーマ：Koala Café：Support for Children Told of Their Parent's Cancer in Japan 発表者：Yukiko Terada, Masako Minamikawa, Mayumi Sonoyama, Keitaro Iwasaki, et al.
10月13日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
10月15日(月)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局7名
10月28日(日)	⑤ コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ7名
11月9日(金)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局7名
11月10日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
11月18日(火)	⑥ コアラカフェ®開催 参加者：子ども1名、保護者1名、ファシリテーター・スタッフ5名
12月1日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
12月15日(土)	「緩和ケア研修会」においてコアラカフェ®プログラムの紹介(帝京大学医学部附属病院 帝京がんセンター主催) 講師：岩崎啓太郎 対象：緩和ケアを提供する立場の医療者30名
12月25日(月)	「帝京大学研究交流シンポジウム」においてコアラカフェ®プログラムについてポスター発表(帝京大学主催) 発表者：南川雅子、寺田由紀子、岩崎啓太郎、角田知穂、古屋洋子、三木祐子
2019年	
1月5日(土)	がん治療中の子育て相談開催 於 帝京大学医学部附属病院がんサロン
1月11日(火)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局6名
1月20日(日)	⑦ コアラカフェ®開催 参加者：子ども1名、保護者1名、ファシリテーター・スタッフ5名
2月8日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局7名
【リクルート活動】	
9月下旬～	帝京大学医学部附属病院医療連携室を通じて板橋区、北区、豊島区、練馬区、埼玉県内の病院へリーフレットとチラシを郵送
2019年	
1月～	以下の施設にポスター計82枚、リーフレット計326枚、カード計10部を配布 <ul style="list-style-type: none"> • 板橋区・北区の小学校10校 • 板橋区・北区の学童保育・児童館12施設

	<ul style="list-style-type: none"> • 近隣の薬局 10 か所 • 実習等での関連病院 4 施設 • 都営の女性支援センター1 か所 • 板橋区営のボランティアセンター1 か所 • 近隣の交通機関 5 か所 • 近隣のコンビニエンスストア・スーパーマーケット 4 か所
--	---

Ⅲ. 活動の成果

コアラカフェ®プログラムは、2018年4月から2019年2月の間に計7回開催した。その間の参加者は、子どもは延べ18名（小学1年生、2年生、5年生、6年生）、保護者は延べ13名（患者、患者の配偶者）、ファシリテーター・スタッフは延べ44名であり、昨年度と同様の参加者数であった。これらの者がコアラカフェ®への参加を決めたきっかけは、他サポートグループからの紹介、および受診している病院に置かれていたチラシを見つけたことであった。繰り返し参加したのは子ども4名、保護者3名であり、参加を中断した子どもはいなかった。昨年度から継続して参加している子どもたちは、子どもたち同士、そしてスタッフとコアラカフェ®にすっかり慣れ、自分たちで新たな遊びを作り出すといった姿が見られた。今年度新たに加わった子どもは、初回は自分から話すことがほとんどなく、ファシリテーターにぴったりと体を寄せて不安そうであったため、3回目まで同じファシリテーターが対応するようにした。4回目以降は別のファシリテーターが担当になってもプログラムを楽しんでいた。また昨年度から参加している高学年の子どもが、まだ慣れていない子どもを遊びに誘ったり気遣ったりする姿が見られた。これらのことから、本プログラムの①子どもが安心できる場（安全基地）を提供する、②子どもの主体性を尊重する、④子どもの自由な感情表出を促す、⑤仲間意識を醸成する、⑥子どもの退会を強制せず、活動を長期的に継続できるようにするといった5つのポリシーは達成されていると考えられる。

コアラカフェという場が参加者にとってどのような場であるのかを明らかにするために6回参加した保護者にインタビューを行ったところ、「気楽に気持ちを出せる場所」、「親ががんだということを隠さずに来られる安心できる場所」、「ここだったらという唯一の場所」、「親のがんについてあえて言葉にしなくていい」、「子どもが気持ちを出せる場の存在が嬉しい」、「みんながつきっきりで対応してくれる」、「遊んでもらえて嬉しかった」等といった内容が抽出された。

Ⅳ. 今後の課題

1. がんという病気や治療に関する教材作成

病院でのリクルート活動を積極的に行っているため、参加者が徐々に増えつつある。そこで、「おはなしタイム」を利用し、1回10分程度で「がんという病気」、「手術」、「がん化学療法」、「がん放射線療法」等をテーマにした教育的な内容を盛り込む準備を進めてゆく。内容は、子どもが話を聞くだけでなく、主体的に参加できるような教材を用いて構成する。

2. リクルート活動

今年度はリーフレットやポスターを作成し、積極的にリクルート活動を行っているが、次年度はさらに以下の内容を追加・継続する。

- コアラカフェのメインホームページを立ち上げる。
- 帝京大学医学部附属病院の看護部を対象とし、がん患者の子どもへのサポートの必要性について勉強会を行う。
- 帝京大学医学部附属病院内のがんサロンにおいて、「がん治療中の子育て相談会」を継続し、小学生を子育て中のがん患者・家族にコアラカフェ[®]への参加を勧める。

V. 活動の成果等の公表予定

- 日本看護家族看護学会 26 回学術集会（2019 年 9 月 14 日・15 日）ポスター発表
- 第 57 回日本癌治療学会学術集会（2019 年 10 月 24 日～26 日）ポスター発表